

クニマスの保全並びに活用に関する研究(H27~29)

保全と絶滅防止に関する研究

【背景】

クニマス再発見(西湖、H22)



「奇跡のうお・保護を！」



「見たい・食いたい！」



基礎研究の実施

生態解明及び増養殖に関する研究(H23~26)

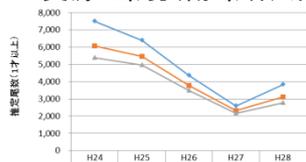
生息規模、未成魚~産卵期の生態の推定、代理親の作出、人工繁殖魚の飼育と採卵



保護、漁業との調和、養殖利用に向けた研究が必要

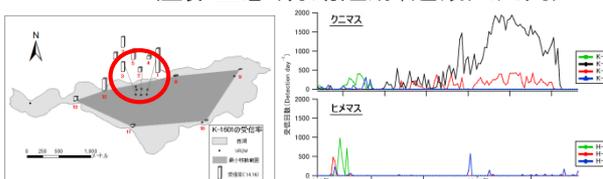
資源変動とその要因、産卵実態、養殖特性、代理親からの復活技術

資源・環境(衛環研共同)



1才以上: 2-4千尾と推定

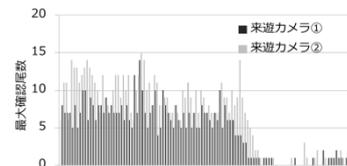
産卵生態(行動追跡; 近畿大共同)



既知産卵場に集中、ヒメマスと来遊時期に差

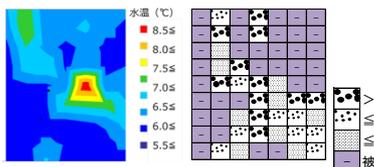
資源動向と生息環境、産卵実態、産卵環境の包括的な調査により、クニマス保全に必要な知見を集積

産卵生態(潜水調査)

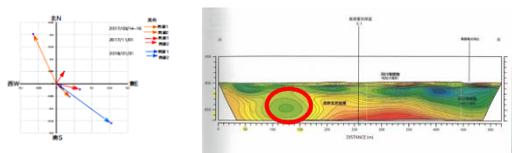


ウナギによる食卵

産卵環境と産卵場水源(富士山研共同)



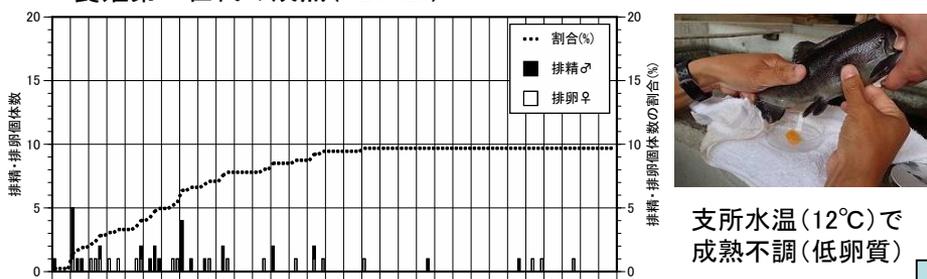
礫地温度(湧水)分布と湖底基質



電探調査、観測井流向流速から帯水層推定

養殖技術の確立に関する研究

養殖第一世代の成熟(H26-29)



支所水温(12°C)で成熟不調(低卵質)

代理親(ヒメマス)からのクニマス作出(東京海洋大共同)



大泉ステーション(水温10°C)で数十尾クニマス稚魚が誕生

ヒメマスとの交雑



実験的に雑種の稔性を確認

【主な成果】

- 産卵環境の解明
- 生殖隔離、ヒメマスとの交雑、雑種の稔性を確認
- 産卵場水源帯水層を推定
- 減耗因子(ウナギ食卵)を確認
- 代理親からクニマス作出に成功(少数)
- 低水温での成熟改善に光

【継続研究計画】

- 冷却設備整備、成熟試験
- 食卵ウナギの効率的除去技術開発
- 産卵場定点カメラの開発